

家畜共済の被害状況について

平成 28～30 年度の金額被害率※は、前 3 年（25～27 年度）に比べ、死亡廃用共済が全体として 1 割弱上昇した一方、疾病傷害共済は約 15%低下した。

※ 金額被害率＝共済金/共済金額

ここで、共済金は、

（死亡廃用共済）損害額（家畜の価額から肉代等の残存物価額を控除）に
農業者が予め選択した割合を乗じたもの

（疾病傷害共済）診療費

主な動向は以下のとおり。

（１）死亡廃用共済

① 牛及び馬

- ・ 家畜の価額が大幅に上昇し、廃用時の共済金が増加。
- ・ 特に肉用牛及び繁殖用雌馬は頭数ベースの被害率も上昇。
 〔 これについて、現場の獣医師からは、家畜の価額の上
 昇に合わせて、繁殖牛の飼養期間が長くなっているとの
 報告。〕
- ・ 育成過程のうち一般に被害率の高い子牛・胎児の価額が特に上昇し、死亡時の共済金も増加。

② 豚

- ・ 全体の被害率は低下したものの、豚流行性下痢が多発した一部の県において被害率が上昇。

（２）疾病傷害共済

① 牛

- ・ 診療費（共済金）がおおむね横ばいであったのに対し、家畜の価額が上昇したことから、被害率は低下。

② 馬

- ・ 診療費、家畜の価額とも上昇し、被害率は横ばい。

③ 豚

- ・ 診療費が増加した一部の県において、被害率が大幅に上昇。